



特集

復興と創生への歩み

2011年3月11日、東日本大震災が発生しました。あの日から10年。当所では、被災した会員企業の存続、復興に向け、出来る限りの経営支援策を講じてまいりました。また、被災後の会員アンケートで、多くの会員企業が望まれた「地域の活性化」にも、力を注いできました。

この特集号では、震災からの「真の復興」と「真の地方創生」へ向け、様々な活動をしてきた塩釜商工会議所の10年の足跡を紹介します。



当所も津波により大きな被害を受けましたが、3月23日には臨時相談窓口を開設しました。並行して会館の復旧作業も行い、5月2日から会館での業務を再開しました



▲平成29年10月、復興のシンボルとして「新魚市場」が完成。高度衛生管理に対応し、展望デッキ、調理スタジオ、一般客も利用できる食堂も備え、先進的な施設に生まれ変わりました

◀中心市街地再生の拠点となる海岸通地区では、1番地区のマンション、事務棟、立体駐車場が完成しました。道路を挟んだ2番地区では、食を中心にした「直会横丁」の整備が進んでいます



第1ステップ「復旧」

2011年3月11日～2012年

震災発生後、臨時相談窓口を開設すると共に、会員企業を訪問し、被災状況の調査を行いました。そして会員ニーズをもとに、関係機関への要望活動や支援施策説明会、相談会など、早期の復旧に向け、全力で対応に当たりました。

◆臨時相談窓口の開設



震災発生後12日目の3月23日から、臨時相談窓口をキクニ(株)2階に設置。4月30日までの延べ30日間に、272名が来所しました。

◆要望活動の実施



2011年5月25日、日本商工会議所の岡村正会頭へ、復興に向けた支援策等を要望しました。このほか2011年度は宮城県、塩竈市、中小企業庁など、各関係機関へ12回の要望を行いました。

◆遊休機械無償マッチングによる復旧支援

津波で産業機械が流出、損壊した45の被災企業に、日本商工会議所と全国の商工会議所からの支援を受け、消耗品等も含め3,210点の遊休機械を提供しました。



◆全会員訪問・被災状況調査



被災状況の把握と復興に向けた意見、要望等の集約を目的に、会員事業所を巡回訪問しました。

◆被災事業者支援施策説明会、ワンストップ相談会の開催



被災者に対する支援制度の説明会を開催しました。各関係機関が一堂に会し、支援策や融資制度などの説明を行い、個別相談会も行いました。



◆グループ補助金の利用支援 (計7グループ・180事業所)

国の被災事業所支援施策の核となった「中小企業等グループ施設等復旧整備補助事業(グループ補助金)」の募集では、当地区のグループ化と申請手続きの支援を行いました。「観光再生グループ」では、共同事業として「藻塩マグロスタンプラリー」を実施しました。



上記のほか、小規模事業者経営改善資金(マル経融資)震災対応枠の利用者28事業所へ利子補給を行ったほか、仮設店舗が並ぶ復興市場で、「がんばっぺ!塩竈福幸市」も開催しました。

基幹産業である水産加工業界では、休業期間の長期化や風評被害による販路の縮小、消滅などがあり、復興への大きな課題となりました。当所では商談会や見本市、各地物産展への参加など、「販路の回復・開拓」のための支援事業を実施し、被災企業の早期再建、経営安定化へ取り組みました。また、各地の商工会議所等からは、継続して心温まるご支援をいただきました。

◆衆議院東日本大震災復興特別委員会で意見陳述



2013年6月1日、桑原茂会頭が被災商工会議所を代表する一員として、衆議院震災特別委員会で意見陳述をしました。販路復活への支援と復興支援制度の充実を訴えました。

◆各地物産展への参加・出展

販売再開した地場産品のPRと消費拡大のため、全国各地の物産展へ参加、出展しました。



足利の物産展では、当所女性会の協力も得ながら物販をするとともに、菅原周二副会頭は当地の復旧状況の説明にも当たりました



埼玉県三郷市の商工会や各地の商工会議所からは、継続して物産展での販路回復支援を行っていただきました。また、同県飯能商工会議所などから、毎年支援金を頂きました

◆伊達な商談会の開催



「伊達な商談会 in shiogama」を開催。全国から招いたバイヤーと地元企業が販路の回復へ向け、個別商談を行いました。

◆塩釜フード復興見本市の開催

震災の影響が続く中、震災後初の「塩釜フード復興見本市」を開催。復興した水産加工業をアピールしました。この商談会は、女子高生や当所女性会などと協力してレシピ集を発行するなど、毎年内容を充実しながら現在も継続して開催しています。



◆インターネット「おもてなしギフトショップ」の開設

販売促進を図るため、Yahooショッピングサイトへ小規模な企業でも参加しやすいサイトを開設しました。（現在4社）



上記のほか、「がんばっぺ！塩竈ステッカー」の制作販売や震災復興しおがま歳末セール開催、会報では会員企業の復興の歩みを連載するなど、復興へ向けアピールしました。

塩竈市の被災状況

- ・津波の高さ 塩釜港奥部4.38m
浦戸地区8m以上
- ・死者 47名
- ・被害総額 1,216億円 (H24.11.1時点)
- ・浸水地区 本土の市域面積の約22%
- 2011.3.11～2012.6.30までの記録は、当所発行の「東日本大震災の記録」をご覧ください
URL: <http://www.shiogamacci.jp/img/file661.pdf>

こちらから



QRコード

震災後の会員アンケート調査では、会員企業が当所に求める事業として「地域活性化」が一番に挙げられました。当所では、大震災で疲弊した現状を乗り越えるためには、「地域資源を活用した交流人口の拡大」が最大の課題と捉え、地域資源の勉強会や塩竈PRグッズの制作、ゆめ博の開催など、各種事業を展開してきました。

◆地域資源勉強会の開催

塩竈の歴史と文化に根差す多くの地域資源を掘り起こし、活用することで地域全体のブランド化をすすめようと勉強会を開催してきました。平成24年度から昨年度まで10回開催し、延べ900人が受講しました。



◀ 第三弾は「酒」が

◆塩竈PRグッズの制作

地域資源を新たな形で表現した、“オリジナルグッズ”の開発を行い、ストラップや塩竈扇子など8種類を制作しました。会員企業を通じて販売することで、新しいスタイルの地域商業振興事業を展開しています。



▲「御座船チョコQ」
みなと祭の御座船は塩竈のシンボル。チョコQとなった2隻の御座船は大好評で、制作個数は2万個に



▲「鹽竈バッチ」
鬼滅の刃ブームに先駆け、地名を旧字でアピール。これまで、3,500個が売れました

◆歴史的建造物の活用

中心市街地に点在する「歴史的建造物」を活用し、「まち歩き」ルートを提案するなど、にぎわい再生へつなげています。



▲歴史的建造物を巡る「まち歩き」が好評です

◆会議所活動の見える化

ゆめ博イベントなど、マスコミ等へ工夫を凝らした情報提供を行うことで、新聞等で多数取り上げられました。会員だけでなく、市民の皆様と連携しながら協働のまちづくりを推進しています。



◆「みなと塩竈 ゆめ博」の開催

地域資源勉強会を開催する中で、塩竈の地域資源の魅力を再認識。塩竈の持つ魅力を多くの方々に知ってもらうシティセールス事業として、「ゆめ博」を開催しています。仙台圏をターゲットに「海」「歴史・文化」「食」をテーマにさまざまなイベントを実施、交流人口の拡大を図っています。

また、ゆめ博事業で地域資源を活用した塩竈のブランド化を推進したことが評価され、日本商工会議所からは「きらり輝き観光振興大賞」優秀賞を受賞しました。



◀ 「真の復興・真の地方創生」を目指した点が評価されました

▶ 「海」のイベントでは、恒例となった巡視船の一般公開



◀ 歴史ある塩竈の街並みによく似合う「人力車」

◆塩竈商人塾・創業スクールの開催

復興を果たした会員企業の販売支援事業として「塩竈商人塾」を開催しています。また、本市での創業予定者や起業に関心がある方を対象に「創業スクール」も行い、受講者10名が実際に起業しています。

▶ 商人塾は、販売計画書作成やチラシ・POP作成、商品の写真撮影など、販売促進に繋がるテーマで行いました



◀ 創業スクールでは、経営の基礎や資金計画、ビジネスプランの作成などを取り上げました

◆「みなと塩竈海保カレー」の開発

宮城海上保安部の協力を得て、「みなと塩竈・海保カレー」を開発。お寿司に加え、新たな名物グルメとして、市内の8つの飲食店で提供いただくなど、地域経済の活性化を目指しています。



▲昨年3月にはレトルトも販売開始

◆歴史観光案内板でまち歩きを誘導

まち歩きを楽しむ観光客に、歴史ある塩竈の魅力を知らってもらうため、市内7カ所に歴史観光案内板「夢ヒストリー」を設置しました。まち歩きをしながら奥深い塩竈の歴史を学ぶことができます。



▶ ボランティアガイドなどの関係者へ、案内文の説明会も行いました

第3ステップ「真の復興・真の地方創生へ」 その2 2020年～

ゆめ博事業等で交流人口拡大への道筋が見え始めた中、新型コロナウイルス感染症との新たな戦いが始まりました。新しい生活様式へ対応した経済活動を支援するため、「withコロナ生活応援スタンプラリー」を行うなど、この危機を一丸となって乗り越え、皆様と共に塩竈のブランド化を推進し、真の地方創生を目指してまいります。

◆巣ごもり生活応援・withコロナ生活応援チラシ

「コロナに負けるな！がんばろう みなと塩竈プロジェクト」を立ち上げ、デリバリーやテイクアウト、各種サービスの情報をチラシとHPで発信しました。



▲ゆめ博事業では、スタンプラリーを実施、2,600通を超える応募がありました

◆コロナ対策支援事業

塩竈市から補助を受け、備品購入補助金を創設したほか、割増商品券の発行、青年部主催でのドライブインフェスタなどの事業を実施しました。アフターコロナを見据え、今後も会員企業のニーズに応えた事業を展開してまいります。



▲感染防止対策として購入した備品の費用を補助、161事業所の利用がありました



▶10割増商品券を2回発行しました

◆WEBセミナーの実施

講習会等への出席がむずかしい中、いつでも、どこでもインターネットで様々なセミナーを視聴できる「WEBセミナー」を始めました。昨年4月から実施し、先月まで述べ650名が視聴しています。



▲青年部主催で「ドライブインフェスタ塩竈」を開催、塩竈に元気を取り戻しました



東日本大震災から10年 新時代に向けて再生

塩釜商工会議所 会頭 桑原 茂

心を合わせて歩んだ10年

2011年3月11日、未曾有の被害をもたらした東日本大震災。津波は、海水面が急激に上昇し、防潮堤を超え、街中に流れ込んできました。黒い津波は中心部の6割が埋立地と言われる街中で、低地を求めようになり狂い、車や人を巻き込み、基幹産業の水産業にも甚大な被害を与えました。発災直後、不安と混乱の中、私たちは、復旧と復興を信じ、心を合わせながら一つひとつ壁を乗り越えてきました。そして、それは日本商工会議所をはじめ、全国の皆様からたくさんの温かい支援や励ましをいただきながら歩んだ道のりでありました。



▲整備が進む海岸通2番地区の完成イメージ。「塩竈直会横丁」として食を提供、塩竈の魅力を発信します

人口減少、高齢化が深刻に

当所では、復興に向けて、第1ステップとして、会員事業所の「復旧」支援を、第2ステップとして、地域活性化のための「復興」事業を、そして現在、第3ステップとして「真の復興」、「真の地方創生」を掲げ、各種の事業を展開してまいりました。

大震災以降の10年間で、人口の減少、高齢化による経済活動の縮小という課題が深刻化しています。また、大きな被害をもたらす自然災害も頻発するようになりました。昨年来の新型コロナウイルス禍では感染拡大を防ぐ備えも必要になっています。さらにコロナ禍後に向けDX（デジタルトランスフォーメーション：デジタル変革）の推進やテレワーク等への転換などが求められ、事業者を取り巻く経営環境は大きな変革期を迎えています。

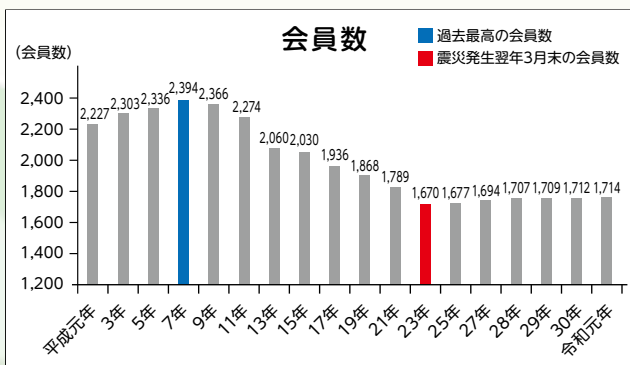
新たな塩竈を創造、オンリーワンを目指して

震災直後、大きく落ち込んだ会員数は、現在は微増ながらも年々回復傾向にあります。また、昨年12月から今年1月にかけて実施した「会員ニーズ調査」では、商工会議所に望む事業として、「補助金・助成金申請支援」や「地域活性化」が挙げられ、地域の企業を支える商工会議所の役割はさらに大きくなっています。

大震災からの真の復興のためには、既存産業・基幹産業を新時代へ向けて再生しなければなりません。そして、事業者の様々な経営課題に対して、きめ細かな伴走型の支援を行うとともに、地方創生へ取り組み、新たな塩竈を創造していくことが重要です。今後とも「会員と共に 地域と共に」をモットーに、地域の魅力をさらに磨き上げ、発信し、オンリーワンのまちづくりを目指してまいります。

会員の皆様には引き続きご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

●平成元年以降の会員数の推移



●商工会議所に望む支援事業策について（会員ニーズ調査により）

